
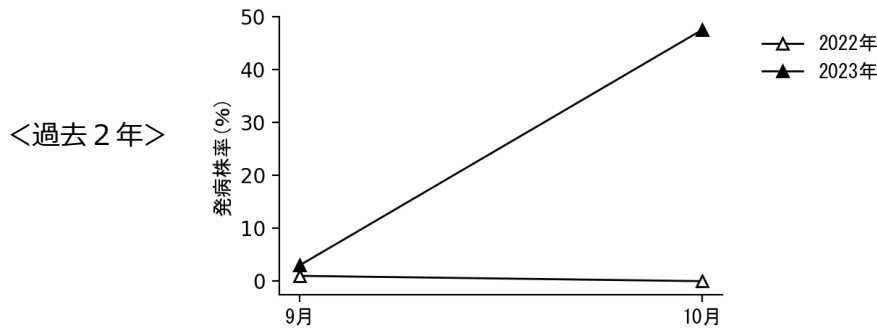
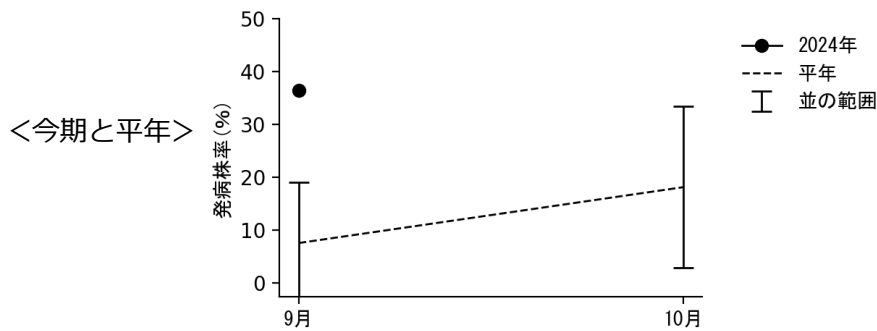


作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	① 葉いもち病		
調査結果	9月の発生量（平年比）	やや多	
予報	9月からの増減傾向	↗	
	10月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


発病株率の推移



- 。一部ほ場で多発
- ・発生ほ場率75.0%（平年：26.5%）

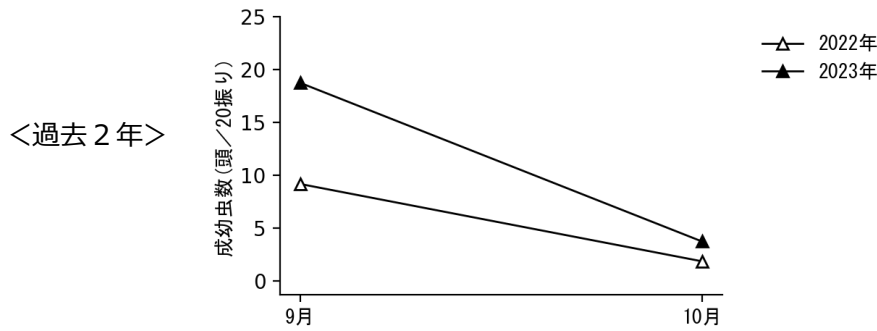
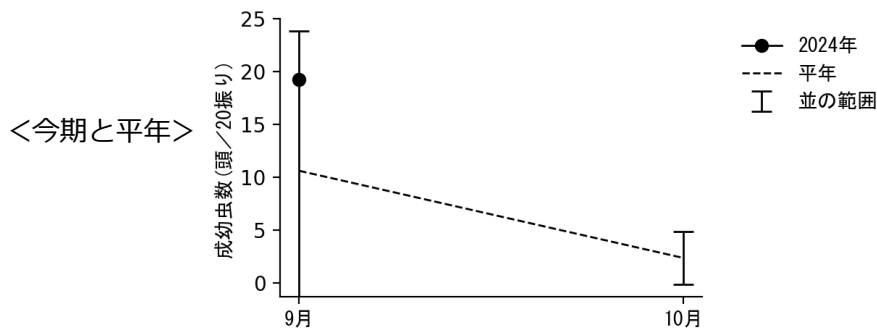
防除のポイント

- ・窒素肥料の過用により徒長した場合や葉色が濃い場合に発生が多いため、これらのほ場では施肥量を減らすか、ケイ酸資材の施用を行う。
- ・穂いもち病への移行を防ぐため、発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・発生の多い地域では、共同防除を行う。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	② セジロウンカ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↓	
	10月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率87.5%（平年：75.0%）

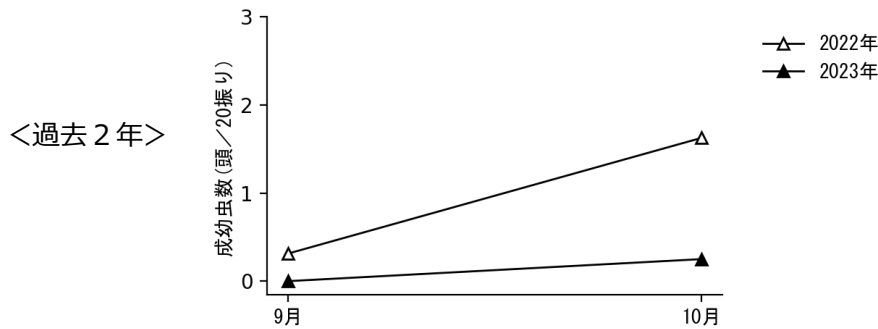
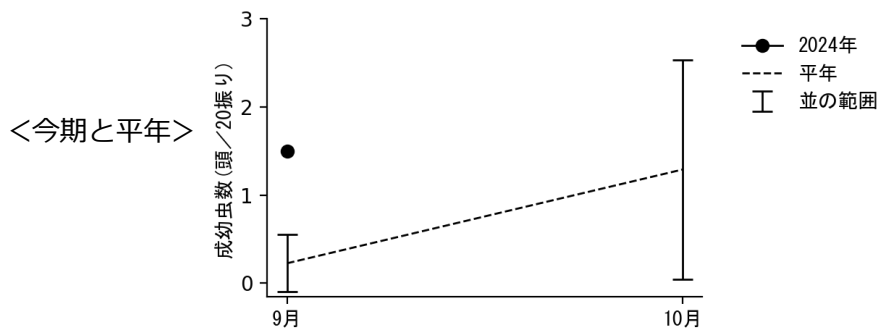
防除のポイント

- ・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。
- ・突発型の害虫であるため、発生予察情報を注意する。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	③ ツマグロヨコバイ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	多	
予報	9月からの増減傾向	↗	
	10月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：14.6%）

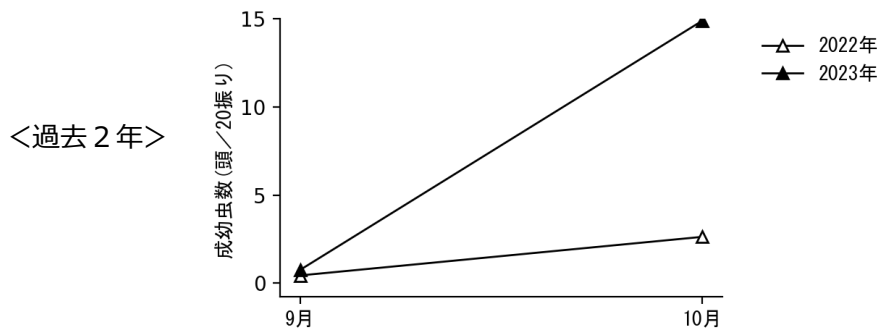
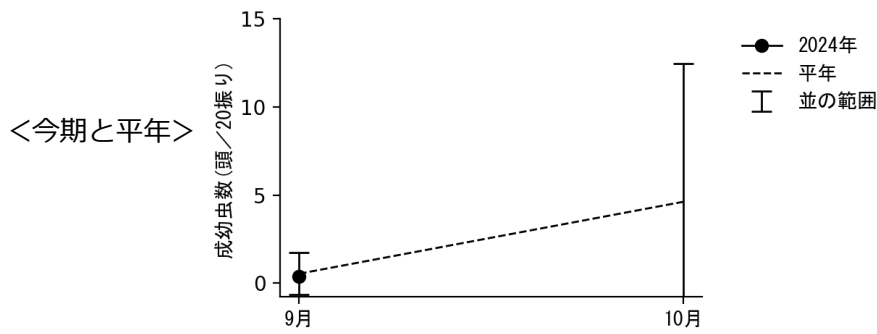
防除のポイント

- ・育苗時の初期防除と吸汁害対策としての本田防除を徹底する。
- ・水田周辺の雑草防除を行い、発生源を少なくする。

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	④ 斑点米カメムシ類		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↗	
	10月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率37.5%（平年：18.9%）

防除のポイント

・次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。




クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

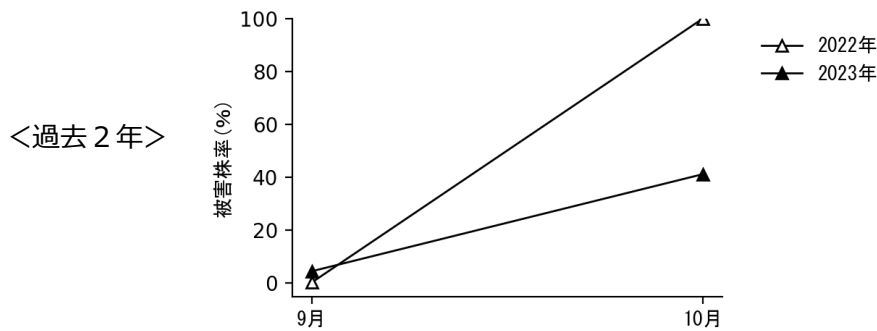
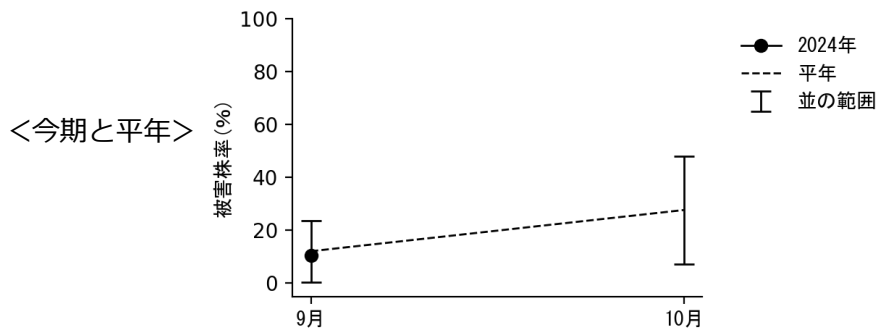


斑点米

作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	⑤ コブノメイガ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↗	
	10月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

被害株率の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：44.6%）

防除のポイント

- ・二期作では幼虫と成虫が混在するため粒剤と液剤を併用して防除する。

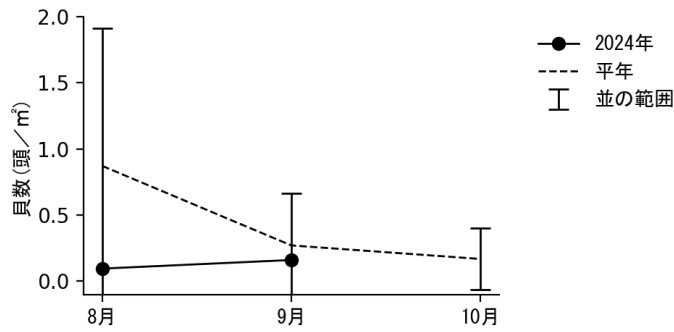
作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	⑥ スクミリングガイ		
調査結果	9月の発生量（平年比）	並	
予報	9月からの増減傾向	↘	
	10月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	



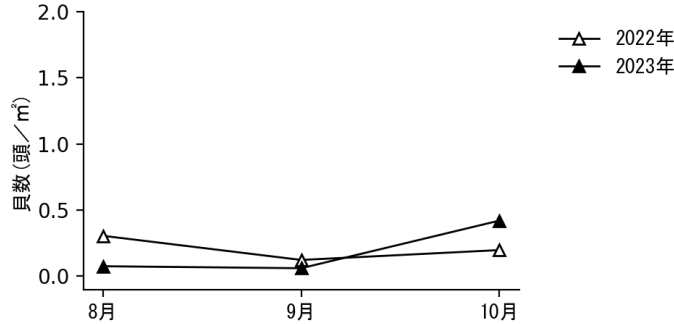
調査結果

貝数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率37.5%（平年：39.2%）

防除のポイント

- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。